

第二九期中間

二〇一六年四月一日～九月三〇日

事業報告書

株式会社クレス



トップメッセージ

株主のみならずには日頃から格別のご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。中間期の業績とクレスコグループのさらなる成長に向けた取組みについて、ご報告いたします。

当期の基本方針

たゆまぬ『信頼と成長』

クレスコグループは2016年4月から5ヶ年の新ビジョン『CRESCO Ambition 2020』をスタートしました。当期は初年度として「たゆまぬ『信頼と成長』」を基本方針に掲げています。

世の中はここ数年で、クラウドやモバイル端末（スマートフォンやタブレットPCなど）を活用したシステムへの移行、IT基盤システムの統合や再構築、ビッグデータの分析と活用、ソーシャル技術のビジネス活用など、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術）に関連する領域が著しく成長しました。今後、人工知能(AI)、ロボティクス、IoT (Internet of Things: モノのインターネット)などの次世代トレンドと相まって、さらに急激に変化していきます。それは、市場の多様なニーズを満たすために全ての企業が直面し、体験する「劇的な変化」です。つまり、あらゆる企業・団体・産業が、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を模索する、「デジタル変革」のステージを迎えることとなります。

その「劇的な変化」の時代で、『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。』をスローガンに、さらなる成長を目指しています。

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～ 『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝くクレスコ

当期の重点施策

当期は、「ビジネスのスピードアップ」「コア事業を組合わせたビジネスの推進」「デジタル変革をリードする先端技術の研究、拡大」「品質、生産性の徹底的追求」「サービスビジネスの推進」「グループシナジーの強化およびM&A、アライアンスの推進」「大規模・複雑化・多様化する課題を解決するスペシャリストの育成およびスキル強化」「開発体制の拡充」「積極的な情報発信」「グループガバナンスおよびコンプラ

イアンスの強化」の10項目を課題として掲げ、営業力、技術力、開発力の強化を目的とした諸施策を推進し、企業価値向上に取り組んでいます。

当中間期の経営環境

熊本地震やイギリスのEU離脱問題に始まり、消費の低迷や円高、マイナス金利など、国内の懸念事項が相次ぎ、先行きの不透明感から、企業の投資が慎重姿勢に転じるなど、経営環境は踊り場となりました。企業の戦略的なIT投資の勢いは、競争力に直結するイノベーションを志向する「デジタル変革」の潮流が後押しする形となり、第3のプラットフォーム、人工知能、ロボティクス、IoT、セキュリティへの関心が高まっています。特に、クラウドとモビリティに関する領域は、パブリッククラウドやモバイル端末の普及を背景に、導入する企業が増えています。

当中間期の取組み

当中間期の主な取組み実績は、本書の「Topics」でご紹介していること他に、2016年4月に基本給のベースアップを実施しました。当社の事業である受託システムの開発を支えている社員の、満足度を向上するための施策のひとつです。

また、受託システム開発に付加価値をつけ、お客様の新しい取組みへのご要望にいち早くお応えできるように、先端技術にも継続して取り組んでいます。「技術研究所」では、2～3年先の技術トレンドを見据えて他企業や大学との共同研究を進めています。そして、研究結果を実用化できるように、「先端技術事業部」がサービス・ソリューションの開発に取り組んでいます。その結果、株式会社ソフトバンク様と日本ア



代表取締役会長 執行役員
岩崎 俊雄

代表取締役社長 執行役員
根元 浩幸

イー・ビー・エム株式会社様が共同で開発した人工知能「Watson(ワトソン)」の日本語版を活用した、日本発のマッチングシステムを開発し、4月からお客様企業で利用が始まりました。そして、「Watson」を活用したシステム開発は、他のお客様からも受注しています。

当期の見通し

情報サービス産業全体の動向は、企業の業績回復を背景としたIT投資の増加に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を模索する「デジタル変革」の潮流に乗り、先進的な技術分野の需要がますます拡大すると予測しています。

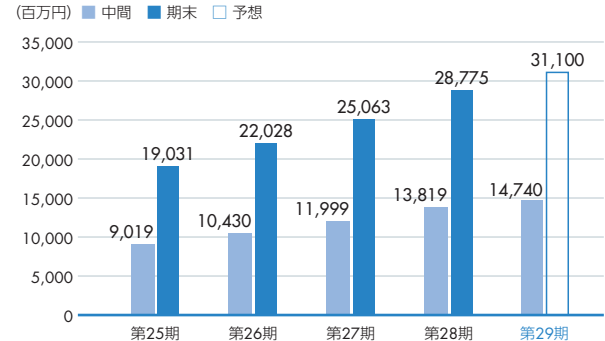
クレスコグループは、「デジタル変革」をリードし、お客様がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる、現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業(ビジネス系ソフトウェア、組込み型ソフトウェア)において、技術および品質の面でさらなる強化を図ってまいります。また、先端技術を積極的に取込み、お客様の成長に寄与するサービス・ソリューションを充実させ、社会に貢献してまいります。

決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高6.7%増、営業利益6.4%減、経常利益8.9%減、純利益14.7%減の増収減益。
- ◆ソフトウェア開発事業は、金融関連、公共・サービス関連(人材、旅行)が業績を牽引。一部不採算プロジェクトあり。
- ◆組込み型ソフトウェア開発事業は、通信システム関連で、デジタル通信端末(スマートフォン)の開発規模が逡減。その他の、デジタル情報家電、医療機器(マルチメディア)、制御系が堅調に推移。

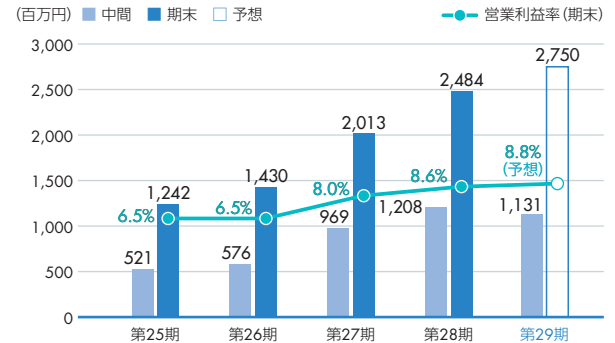
売上高

147億40百万円



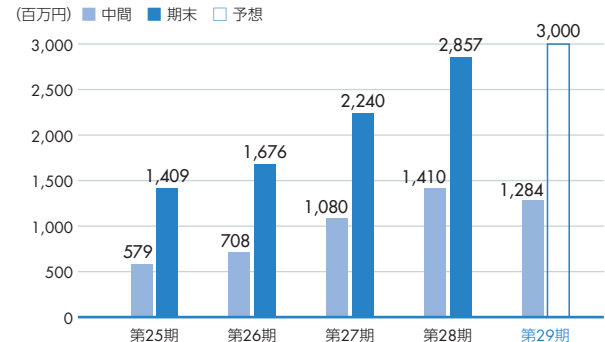
営業利益・営業利益率

11億31百万円



経常利益

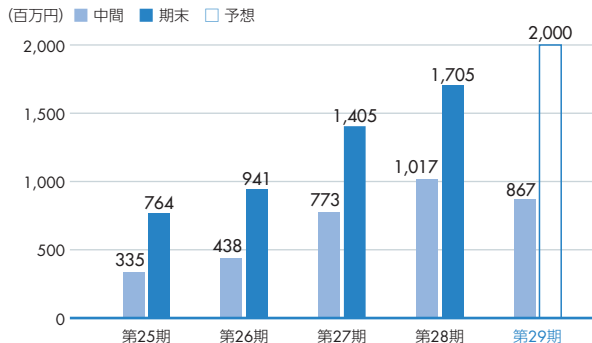
12億84百万円



連結業績ハイライト

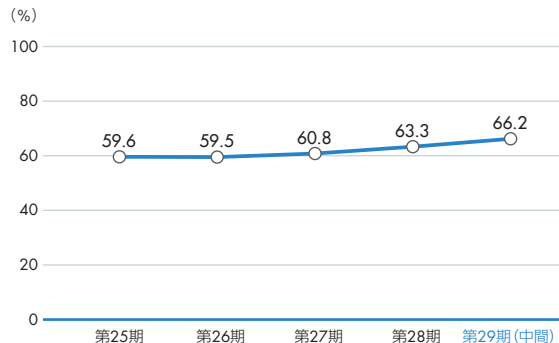
純利益 (親会社株主に帰属)

8億67百万円



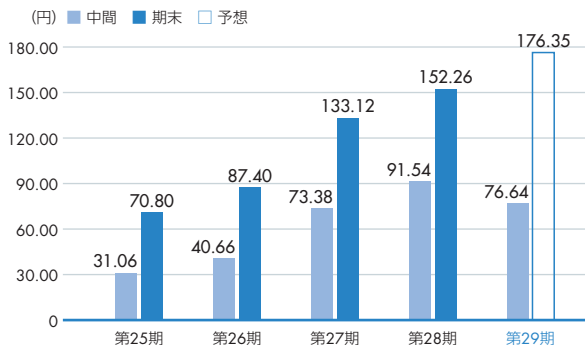
自己資本比率

66.2%



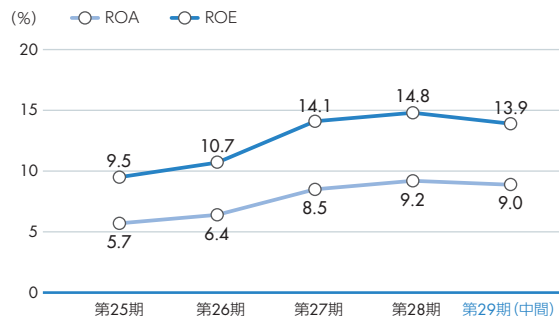
1株当たり純利益

76.64円



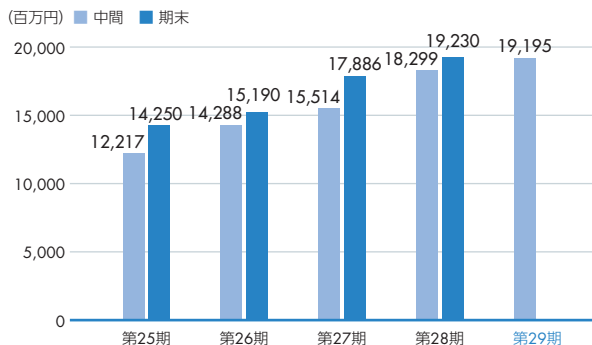
ROA & ROE

ROA 9.0%
ROE 13.9%



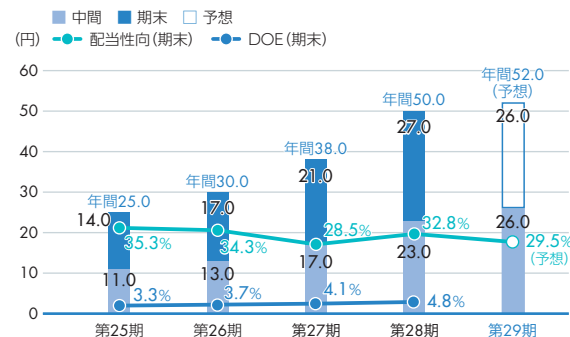
総資産

191億95百万円



1株配当金・配当性向・DOE

1株配当金 26.0円

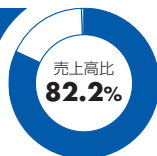


連結業績ハイライト

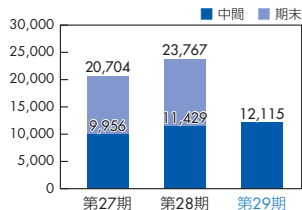
セグメント別概況

ソフトウェア開発

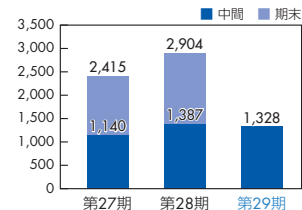
売上高 **121億15百万円**
営業利益 **13億28百万円**



売上高 (百万円)

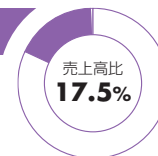


営業利益 (百万円)

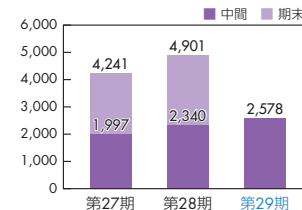


組み込み型ソフトウェア開発

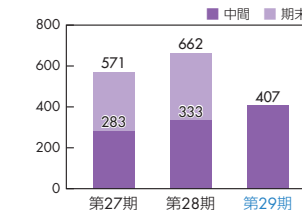
売上高 **25億78百万円**
営業利益 **4億7百万円**



売上高 (百万円)

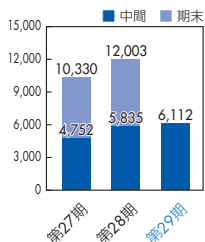


営業利益 (百万円)

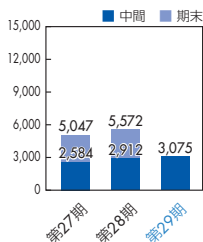


業種別売上高 (百万円)

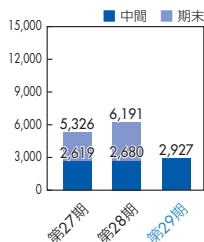
<金融・保険>



<公共サービス>

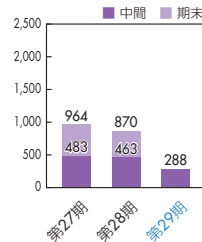


<流通・その他>

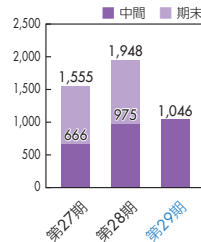


分野別売上高 (百万円)

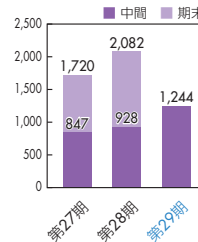
<通信システム>



<カーエレクトロニクス>



<情報家電・その他>

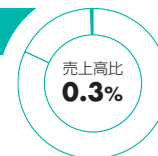


配当方針

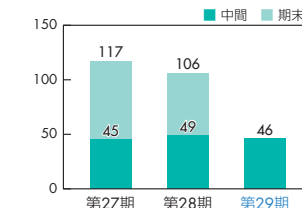
当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社(単体)の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目標に、継続的に実現することを目指してまいります。

商品・製品販売

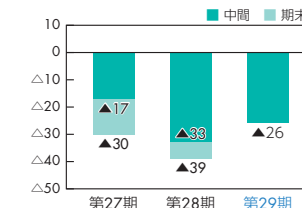
売上高 **46百万円**
営業利益 **▲26百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組み込み技術

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸にしなが

ら、さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組み込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると

40年近く。他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

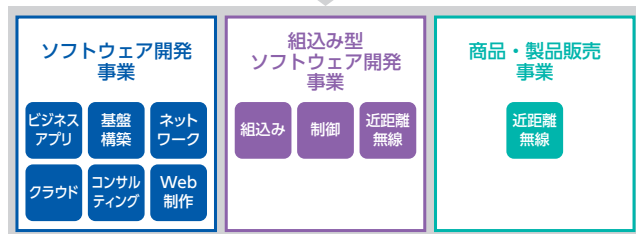
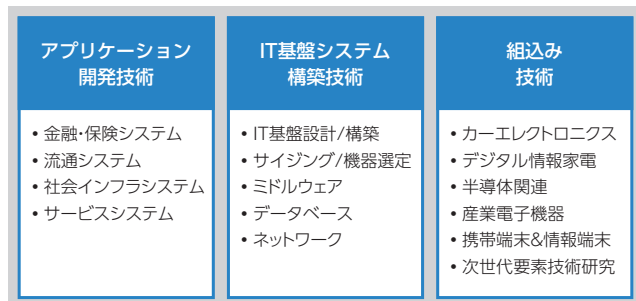
品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え、成長し続けてまいります。

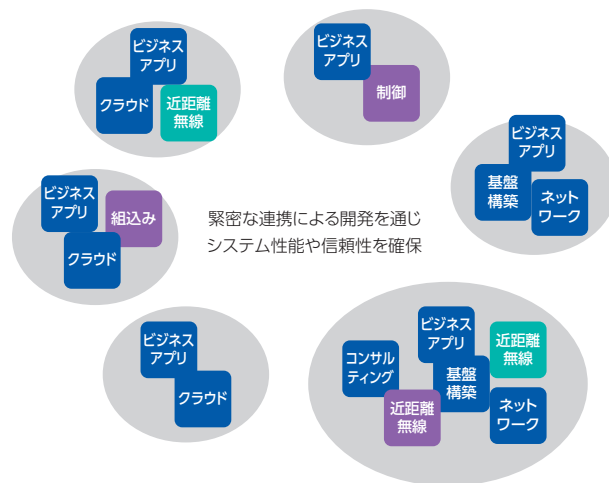
社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味を持つ「CRESCO」を社名としております。

クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



旅行業向けのビジネスを強化

旅行業向けシステム開発を主力事業とする「株式会社エヌシステム」が、2016年9月1日付でクレスコグループに子会社として加わりました。「エヌシステム」は“旅の情報発信基地”として、JA（農業協同組合）グループ様の旅行事業を担う株式会社農協観光（Nツアー）様の出資により、1982年に創業しました。旅行業をはじめとする多種多様なフィールドで、コンサルティング、設計から運用まで幅広いソリューションサービスを提供しています。当社は複数の旅行会社様のシステム開発を行っております。クレスコグループに加わった「エヌシステム」と連携し、今後、需要の拡大が期待できる旅行業向けシステム開発を拡充いたします。なお、「エヌシステム」は2016年9月28日付で5,000万円から1億円に増資しました。事業計画に応じた自己資本の増強による財務基盤の強化を図るとともに、将来に向けたさらなる事業拡大を図ります。

エヌシステム

「科礼斯軟件（上海）有限公司」の解散と清算

中国進出の日本企業に対するソフトウェア開発を主軸とした支援およびアジア地区における当社の商圏拡大を図るために、2012年6月に中国上海市に設立した子会社の「科礼斯軟件（上海）有限公司」を解散し、清算いたします。設立直後から新規開拓や事業の継続、拡大を図りましたが、中国市場の縮小や日本企業の中国撤退等により、業績の低迷が続きました。今後も当該事業の業績回復は見込めないことから、同社を解散、清算し、経営資源を他事業に集中することが、クレスコグループの今後の発展に重要であるとの結論に至りました。中国の法令等に基づき必要な諸手続きを経て、2017年3月に清算完了する見込みです。



SAP® ERPユーザ向けに

「SAP S/4HANA®」への移行支援サービス

子会社「クレスコ・イー・ソリューション」が、SAPジャパン株式会社様の基幹業務パッケージシステム「SAP® ERP」から「SAP S/4HANA Enterprise Management (SAP S/4HANA®)」への移行を短期間で実現するサービスの提供を、2016年10月1日から開始しました。



「SAP® ERP」から「SAP S/4HANA®」に移行稼働する期間を30%以上短縮して、通常6ヶ月以上かかるところを最短で4ヶ月で実現します。

「クレスコ・イー・ソリューション」は今後も、お客様の満足度向上とビジネスパフォーマンスの向上に貢献いたします。

仕事と家庭を両立してキャリアアップを目指す 職場環境づくり

株式会社パソナ様が「女性が自分らしくキャリアを築いていくことを支援する」をテーマに運営している女性の転職支援サイト「ウーマンキャリア」で、当社の職場環境が仕事と家庭を両立させてキャリアアップを目指せるとして紹介※されました。

当社は創業理念である「クレスコ憲章」の中で、「クレスコは人間中心、実力本位の会社である」を掲げており、一般職／総合職という区分や、男女の区別はありません。意欲と適性があれば誰にでも管理職への道が開かれています。

2011年4月～2016年3月の5ヶ年計画、次なるステージへの挑戦と成長をテーマとした「次世代クレスコ」の中で、「女性が活躍できる職場」として、女性が積極的に管理職を目指す仕組みづくりや、結婚・出産後も継続して働ける職場環境づくりに取り組みました。法定制度の枠を超えて設計された「仕事と育児の両立支援制度」を設け、男女問わず多くの社員がその制度を活用しています。

「次世代クレスコ」開始当初は部長職は男性のみでしたが、2016年4月1日時点で子育て中の女性を含む4人が部長職を担っています。

※「ウーマンキャリア」の紹介ページ

http://www.w-career.jp/content/company_feature/active/cresco.html

障がい者就職支援サイトで 当社の障がい者採用の取組みを紹介

株式会社イフ様が「障がい者雇用の“今”を考える」をテーマに運営する障がい者就職支援サイト「サーナ・アーカイブス」のコーナー「障がい者雇用の取り組み」で、当社の取組みが紹介※されました。当社は創業理念である「フレスコ憲章」の中で、「フレスコは人間中心、実力本位の会社である」を掲げております。未来へ向けて成長を牽引する多様な人財として、障がいのある方の採用をさらに拡大する必要があると考え、2008年から障がいのある方の採用を継続的に行っています。2012年には新卒で視覚障がいの方が盲導犬同伴で入社し、その後も新卒で聴覚障がいの方、知的障がいの方が入社しています。配属部署の社員は事前に、盲導犬協会や職業能力開発センターの方から、障がいの特性、注意を払う点、フォローの仕方などの説明を受け、障がいのある方が働きやすい環境を整えています。

※「サーナ・アーカイブス」の紹介ページ
<http://archives.web-sana.com/vol55/>

自己株式の活用「TIP・2014モデル」

2014年11月から開発体制の強化、事業領域の拡大、新技術の研究開発等の他、M&Aおよび資本・業務提携への積極的な投資を通じて、企業価値の向上を目指すために、自己株式を活用した第三者割当による新株予約権を発行するプログラム(全3回)により、資金調達を行ってまいりました。

第1回の新株予約権(50万個)については権利行使が完了しましたが、第2回および第3回新株予約権については、当社の資金状況および市場環境等を考慮した結果、「TIP・2014モデル」による資金調達を終了し、株主還元の一環として、当社が残存する新株予約権を全て取得し、消却するべきと判断いたしました。

2016年9月9日付で権利行使が行われていない新株予約権(65万個)の全てを取得し、取得後直ちに全てを消却しました。なお、本新株予約権の取得および消却による当期の連結業績に与える影響はありません。

人工知能を活用して眼底疾患の早期発見を目指す 産学共同研究を開始

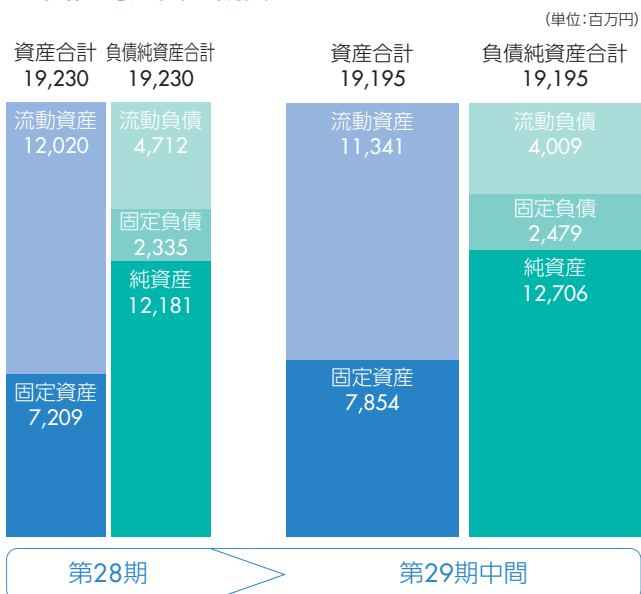
当社の「技術研究所」が、名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学分野様と、眼科領域における画像診断に活用する人工知能システムの共同研究を開始しました。眼球内部の網膜の断層面を撮影する画像を人工知能で解析し、眼底疾患に関する医師の診断の補助となる情報を提供する技術を開発することにより、医師の正確かつ迅速な診断のサポートと疾患の早期発見を目的としています。

本社を増床し、全面リニューアル

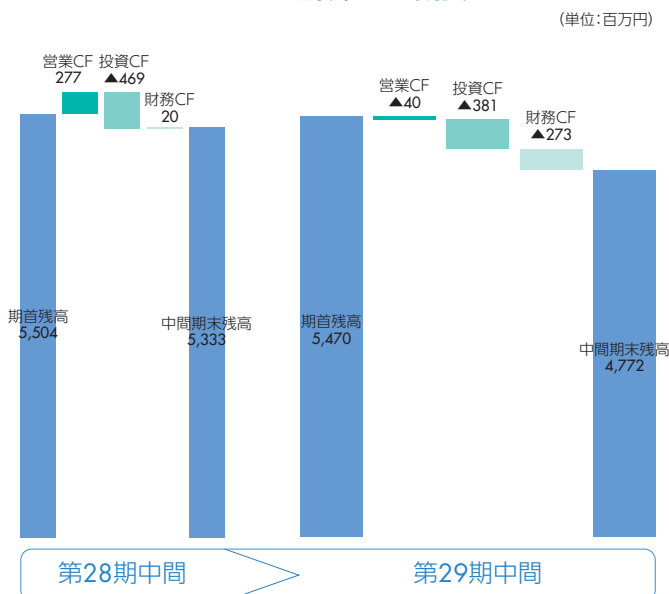
当社の本社は、品川インターシティA棟の25階全フロア、26階全フロア、27階半フロアを使用しておりましたが、今夏から27階を全フロアに増床し、フューチャーセンターを新設しました。また、増床工事に伴い、本社内を全面リニューアルしました。お客様をお迎えするエントランスと応接室を拡張し、落ち着いたお過ごしいただけるように高級感のある雰囲気、社員が過ごす執務室は機能的に改装し、フューチャーセンターには入社式やセミナー等を実施できるプレゼンテーションスペース、最新の技術に触れることができるデモンストレーションスペース、社員のコミュニケーションスペースを設けました。



■ 貸借対照表の概要



■ キャッシュ・フロー計算書の概要



■ 流動資産

6億79百万円
(前年度末比)

仕掛品が2億1百万円増加したものの、現金および預金が6億44百万円、受取手形および売掛金が1億99百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて6億79百万円減少し、113億41百万円となりました。

■ 固定資産

6億45百万円
(前年度末比)

有形固定資産が1億51百万円、のれんが1億85百万円、投資有価証券が1億39百万円、繰延税金資産が87百万円、敷金および保証金が86百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて6億45百万円増加し、78億54百万円となりました。

■ 流動負債

7億2百万円
(前年度末比)

短期借入金が65百万円増加したものの、買掛金が5億87百万円、未払法人税等が1億74百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて7億2百万円減少し、40億9百万円となりました。

■ 固定負債

1億43百万円
(前年度末比)

退職給付に係る負債が1億30百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて1億43百万円増加し、24億79百万円となりました。

■ 純資産合計

5億25百万円
(前年度末比)

その他の包括利益累計額が1億18百万円減少したものの、資本剰余金が51百万円、利益剰余金が5億62百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて5億25百万円増加し、127億6百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が12億90百万円、売上債権の減少額が2億25百万円あったものの、法人税等の支払額が6億50百万円、仕入債務の減少額が5億89百万円、たな卸資産の増加額が1億97百万円、未払消費税等の減少額が82百万円、賞与引当金の減少額が47百万円あったことにより、40百万円の支出(前年同期2億77百万円の収入)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の売却による収入が8億23百万円、投資有価証券の売却による収入が3億66百万円あったものの、有価証券の取得による支出が7億83百万円、投資有価証券の取得による支出が9億3百万円あったことにより、3億81百万円の支出(前年同期4億69百万円の支出)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

新株予約権の行使による自己株式の処分による収入が81百万円あったものの、配当金の支払額が3億4百万円、長期借入金の返済による支出が49百万円あったことにより、2億73百万円の支出(前年同期20百万円の収入)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
財務データ、決算関連資料を
掲載しております。
ぜひ、ご利用ください。

<http://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役会長 執行役員
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



取締役副会長 執行役員
水谷 浩二 Kohji Mizuya
1947年7月6日生



代表取締役社長 執行役員
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



専務取締役 執行役員
第一事業本部、第二事業本部、事業開発本部管掌
兼 事業開発本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



常務取締役 執行役員
グループ事業推進本部、経営管理本部管掌
丹羽 蔵王 Kurao Niwa
1955年11月13日生



取締役 執行役員
財務経理本部長
兼 グループ・アカウンティング部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役 執行役員
経営管理本部長
兼 経営戦略統括部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役 執行役員
グループ事業推進本部長
菅原 千尋 Chihiro Sugawara
1958年9月27日生



取締役(非常勤)
クレスコ・イー・ソリューション(株) 取締役会長
谷口 義恵 Yoshie Taniguchi
1953年10月16日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生



取締役 常勤監査等委員
波多腰 茂 Shigeru Hatakoshi
1951年11月17日生



社外取締役 監査等委員
臼井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生



社外取締役 監査等委員
井手 正介 Masasuke Ide
1942年6月28日生



執行役員
第一事業本部長
菊池 淳 Atsushi Kikuchi
1960年2月2日生



執行役員
第二事業本部長
藤谷 栄樹 Masaki Fujiya
1959年10月23日生



執行役員
事業開発本部副本部長
兼 技術研究所長
丸山 規行 Noriyuki Maruyama
1961年6月19日生

監査等委員

執行役員

1 株式会社クレスコ 本社
2 北海道開発センター
3 長岡開発センター

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- クラウド
- コンサルティング
- 組込み
- 近距離無線

連結子会社

4 クレスコ・イー・ソリューション株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ
- クラウド
- コンサルティング

5 クレスコ ワイヤレス株式会社

事業内容

- 近距離無線
- 近距離無線

6 株式会社アイオス 本社
7 関西営業所

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築

8 クレスコ九州株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ

9 クレスコ北陸株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ

10 科礼斯軟件(上海)有限公司

事業内容

- 組込み

11 株式会社シーズリー

事業内容

- 組込み
- 制御

12 株式会社クリエイティブジャパン

事業内容

- 基盤構築
- ネットワーク

グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮して、さらなるビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

13 メディア・マジック株式会社

事業内容

- Web制作
- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティング

14 株式会社エヌシステム

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティング

関連会社

15 株式会社ウェイン

事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティング

16 ビュルガーコンサルティング株式会社

事業内容

- コンサルティング

17 株式会社エル・ティー・エス

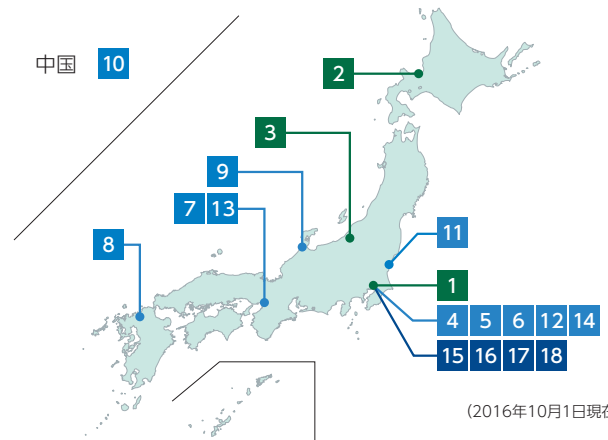
事業内容

- コンサルティング

18 株式会社イー・アイ・エム スタッフ

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築



株式の状況

(2016年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	11,340,780株
	(自己株式659,220株を除く)
株主数	2,562名

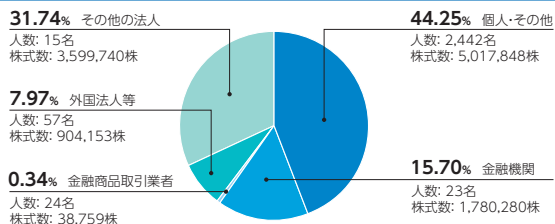
大株主

(2016年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	34,396	30.44
浦崎 雅博	11,818	10.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,324	7.36
佐藤 和弘	4,880	4.31
クレスコ従業員持株会	4,726	4.18
田島 裕之	4,448	3.93
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS	3,900	3.45
岩崎 俊雄	3,034	2.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,890	1.67
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	1,572	1.39

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2016年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ☎ 0120-232-711 (通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞社に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



会社概要

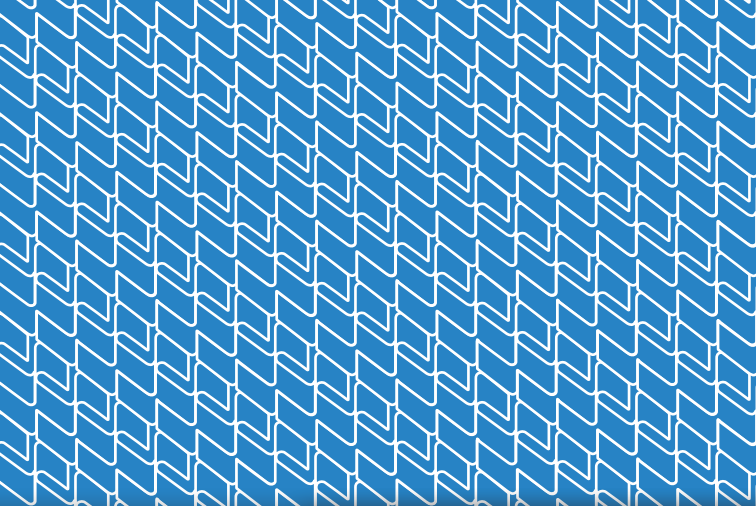
商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	1,056名
所在地	<p>■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019</p> <p>■ 北海道開発センター 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665</p> <p>■ 長岡開発センター 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771</p>
事業内容	<p>情報処理システムに関する</p> <p>■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務</p> <p>■ 設計、開発業務</p> <p>■ 運用管理、保守業務</p> <p>■ 調査、分析、評価および技術支援業務</p>

(2016年10月1日現在)

IRのお問合せ 広報IR推進室

Mail: ir@cresco.co.jp
TEL: 03-5769-8058





東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

